

エコマーク運営委員会（第52回）議事要旨

公益財団法人日本環境協会  
エコマーク事務局

日 時：2024年3月27日(水) 10:00-11:30

場 所：公益財団法人日本環境協会会議室（オンラインにて開催）

出席委員：有田 芳子 （主婦連合会）  
上野 孝二 ((一社)電子情報技術産業協会)※新就任  
○梅田 靖 (東京大学大学院)  
大沼 章浩 ((一社)全日本文具協会)  
鎌田 環 ((独)国民生活センター)  
川江 心一 ((公財)世界自然保護基金ジャパン[委任状出席])  
齋藤 潔 ((一社)日本電機工業会)  
田中 晃 (神奈川県環境農政局 [代理出席])  
田中 太郎 ((株)日経BP)  
田中 博敏 ((一社)ビジネス機械・情報システム産業協会)  
中本 純子 ((一社)全国消費者団体連絡会)  
西尾 チヅル (筑波大学[委任状出席])  
貫名 英一 ((一社)日本オフィス家具協会)  
長谷川 雅巳 ((一社)日本経済団体連合会[委任状出席])  
平尾 禎秀 (環境省 [代理出席])  
藤井 実 ((国研)国立環境研究所)  
増田 充男 (日本チェーンストア協会)  
安 光晴 (コープデリ生活協同組合連合会)  
柳 憲一郎 (明治大学)  
山口 博臣 (日本労働組合総連合会[委任状出席]) ※新就任

(以上20名、50音順、敬称略、○：委員長)

欠席委員：伊坪 徳宏 (早稲田大学)  
大下 英治 (東京商工会議所)

(以上2名、50音順、敬称略)

事務局：新美、小川、山縣、藤崎、大澤、漣、橋本、佐野

- 議 題：1. 2023 年度エコマーク事業報告について  
2. 2024 年度エコマーク事業計画および予算（案）について  
3. その他

配布資料一覧：

- 2022・2023 年度エコマーク運営委員会委員名簿
- 運営委 52-1 2023 年度 エコマーク事業報告
- 運営委 52-2 2024 年度 エコマーク事業計画・予算（案）

1. 2023 年度エコマーク事業報告について

○資料「運営委 52-1」に基づき、事務局より 2023 年度エコマーク事業について報告された。

○事務局説明後の主な質疑応答は以下のとおり。

・スマートフォン・携帯電話の基準について、ポイント制にした理由として技術進歩の速さを挙げていたが、それはあまり関係ないように思える。どのような点で技術進歩と関連する基準になっているのか。

事務局) 説明が足りなかったが、技術進歩の速さを考慮したのは、認定に必要なポイント数を 2 年毎に引き上げる点である。各社で対応できる項目は異なるため、全てを必須とするのではなく、各社の特徴を生かして適合する基準項目が選択できるポイント制にしたということが大きい。

・新しい基準を作成されるときに、どういうところがこれから大事か、なにが足りていないのかなど全体を俯瞰し、整理した上で、次はエコマークとして何をするのがあってよいと思う。今後の世の中の動向を踏まえて、エコマークとして足りていない部分に対して次は何をするのか、今後エコマークとしてどうしていくのを考えることによって、大事なことが抜けないのではないかと思う。

事務局) 15 年程前に体系的な商品類型化の整理を検討したことがある。ご指摘のとおり、そろそろ全体的にあらためて整理する時期に来ていると思うので、事務局で検討し、委員会の中で審議いただきたいと思う。

・15 年前と世の中の状況が変わっているので整理し、ご検討いただきたい。

・「循環型ケミカルリサイクルプロセス」について。ケミカルリサイクルを推進していくためにプロセスの認定とケミカルプラントから出てきた製品の認定で、第 1 期と第 2 期に分けて基準の検討を行うということだが、リサイクルのうちケミカルリサイクルの割合は少ないため、将来的にその分野を伸ばしていくことはサーキュラエコノミーの観

点からも重要で、とても意義があるものと感じる。しかしメリットもあるがデメリットもある。認定にあたってデメリットについて支援できる部分があるとよい。

事務局) ケミカルリサイクルの基準策定については、メリット、デメリットを含めて検討している。デメリットについては、例えば投入する資源については、マテリアルリサイクルに使用するべき資源との兼ね合いなども含めて検討していきたい。

- ・ケミカルリサイクルについて。例えばプロセスの効率等が、認定基準になるとの理解でよいか。検討中の案件なので、大枠の方向性でよいので解説いただきたい。

事務局) ケミカルリサイクルについて、投入する原料はどういったものが望ましいか、プロセスの効率、消費者とのコミュニケーション、法令の遵守、設備要件などを包括したプロセスを評価する基準を考えている。

- ・CO2削減効果の見える化については、脱炭素を目指す取り組みとして、ぜひ進めていただきたい。

- ・エコマークの認定において、定期的に検査があること、時代に合わせて認定基準をバージョンアップしていることなども周知いただくと、エコマークに対する信頼がより高まると思う。

- ・大事なコメントと思う。

- ・CFPの何をするかわかりにくい。基準からCO2のデータの特出しして表示するイメージか。

事務局) まずは、エコマークの申請をいただくにあたってCFPの計算をして結果を公表していることを、必須または配慮事項などでエコマークの認定基準に採り入れていくことが優先事項と考えている。また、今回実施したアンケート結果からみても、エコマーク認定取得企業のCFPやLCAへの理解がまだまだ進んでいないことがわかったため、その啓発が必要と感じている。また、CFPで出した結果を事務局にご提供いただき、事務局のウェブサイトでの情報提供や、ECサイトで連携している企業へ提供する案もある。

- ・広報宣伝活動に関して。DX対応するためのシステム開発について、電子申請システムは事業者にとっても大いにメリットがあり、事務局にとっても事務的な工数などを削減するのに望ましいことであるため、積極的に進めてほしい。オンラインセミナーは、今回未達になっているため、隔月や2カ月に1回など積極的な取り組みをお願いしたい。

## 2. 2024年度エコマーク事業計画及び予算(案)について

○資料「運営委 52-2」に基づき、2024年度エコマーク事業計画および予算(案)について説明され、承認された。

○事務局説明後の主な質疑応答は以下のとおり。

- ・事業計画におけるサービス分野の認知向上のプロモーションについて。事業者向けの計画になっていて、一般消費者向けの計画が薄いので、そちらにも力を入れてほしい。

事務局) ここには書いていないが、SNS関係でインスタグラムをスタートする計画もある。

る。ご意見を踏まえて、一般消費者向けプロモーションの強化も検討していきたい。

・衛生材料について。マスバランス方式はグリーンウォッシュといわれるリスクはないか。ニーズは多いのか。

事務局) ニーズは多い。エコマークに対してもマスバランスの価値づけ、消費者への認知を広げていくことが求められていると考えている。そのためには信頼性が損なわれないことが前提であり、サプライチェーン上のすべての段階が監査された、トレーサビリティがしっかりしているものを認定している。また、割当を行っていない部分で主張をしない誓約や、「バイオマス由来特性を〇%割り当てた」等の表示によって、消費者に誤解を与えないようにしている。

### 3. その他

- ・ 委員の任期は2年間となり、今年度で任期満了となる。本日も出席頂いている委員には、次年度も引き続き委員を依頼したい。後日、事務局より委嘱の手続きをさせていただきます。
- ・ 次回日程について、9月頃を目処に調整する。

以上